

臨床心理士活動状況(平成21年度)

1. 主な活動内容

【相談支援・心理カウンセリング】

<入院>

- ・ がんに関する一般的な支援相談。
- ・ 入院患者さんに関する相談・カウンセリング。
- ・ 本人および家族に対するカウンセリング。
- ・ 精神科受診の要否についてのアセスメント（面接・心理検査）。
- ・ 精神科病院の往診同席やインフォームド・コンセント（説明と同意）への同席（必要に応じて）。
- ・ 入院患者さんの緩和ケアにも医療チームの一員として関わっています。

<外来>

- ・ がんに関する一般的な支援相談。
- ・ 心理カウンセリング（有料：1回 3,000円/50分）。
- ・ 地域医療機関と連携し、心理カウンセリングを必要とする方々の要望に対応するようにしています。

【その他】

- ・ 八尾市立病院公開講座（第8回公開講座「がんを支えるチーム医療」）での講演。
テーマ「がん患者とその家族に対する心理的支援」
- ・ その他にも「こころのケア」について講演をしています。

2. 心理相談件数

平成21年4月～平成22年3月までの心理相談の総件数は724件（がん患者479件、その他245件）です。新規依頼件数は、126名（がん患者64名、その他62名）で、平均して月10名程度の新規依頼があります。

3. 相談内容、年齢別内訳

1) 入院

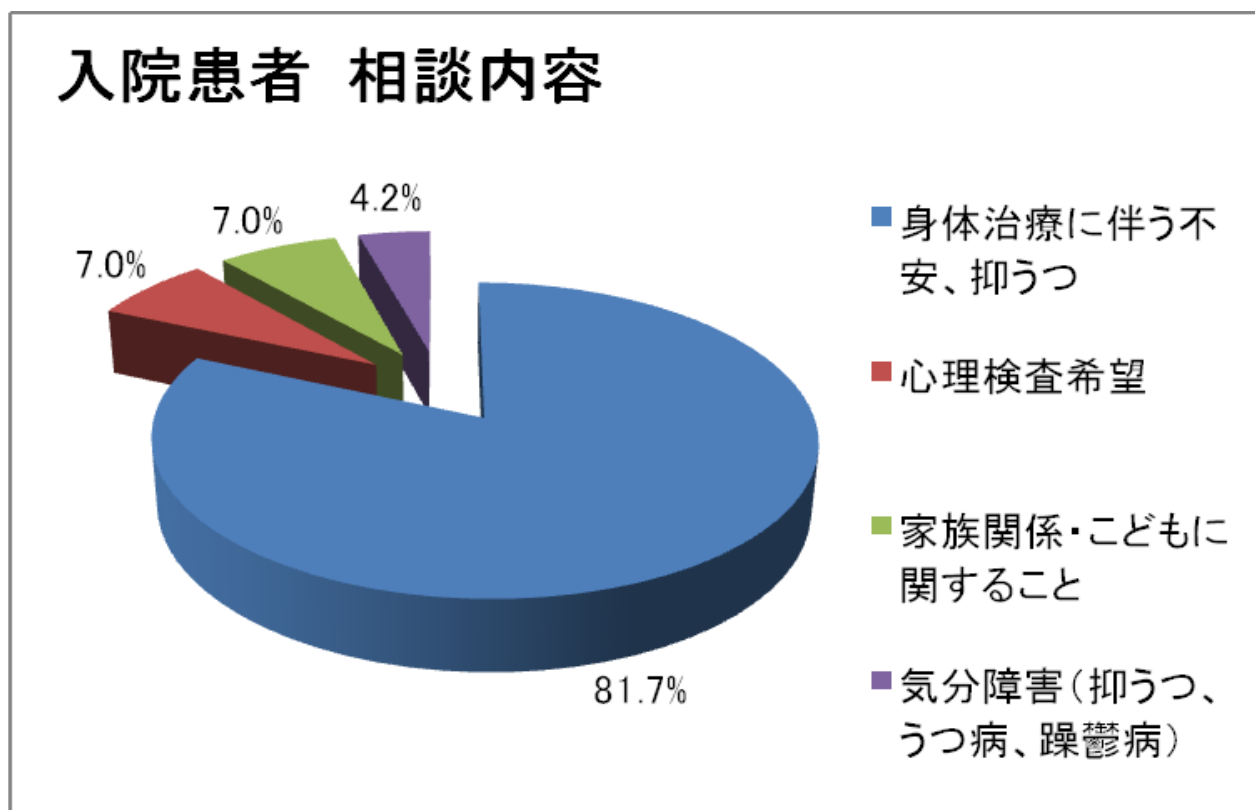
相談内容の内訳としては、身体疾患治療に伴う「不安」「抑うつ」が最も多く、次いで心理検査などの精神症状の評価希望、うつ病等の気分障害が続きます。年齢別では、60代以上の年齢層が過半数を占めています。これは、入院患者さんのほとんどは身体面での治療を要し、おのずと年齢層が高くなるためと考えられ、それに比例して相談者の年齢も上がっているものと思われます。

2) 外来

外来患者さんにおいては、「対人、家族関係の問題」が一番多く「うつ病等の気分障害」が続いていますが、不安や対人関係の問題から職場適応が困難となっている場合もあり、問題が重複している場合も多く、相談内容は多岐にわたっています。

年齢別では10代～30代と比較的若い世代の依頼が過半数を占めています。

■ 入院患者相談内容



■ 外来患者相談内容

